

インディアナ日本語学校便り

だいごう
第35号

令和7年2月1日事務所 317-255-1631 メール ijls@indiana-j-school.net

(HP) <http://www.indiana-j-school.net>

校長 森 勝義

〔児童生徒の作品集④〕

～3学期は1年間の学習のまとめ～

校長 森 勝義

| | | | |
|--|--|---|-------|
| 雪 寒い とにかく寒い 元気が無くなる まっ白 朝ベッドからはなれたくない 外で遊びたくない でも、 ココアがうまい スケートが楽しい 雪だるま作りが楽しい だけど、やっぱり寒い | かがみもち でっかいおもち 三つかさねて どんどんどん みかんのおかお 上にのっけて 正月に作る おもちの 雪だるま | 四年二組 冬休みの宿題「冬の詩」 ツララ 水野谷 燈 冬になるとツララがはえてきて 美しい冬がツララとともににはじまる ツララはいたるところにはえてくる 車のトランクの下、車庫、屋根の下 長くて、短くて、とがっている ああ、なんて美しいんだろう | 熊澤 良知 |
|--|--|---|-------|

「ぼくのブックウーマン」 6年1組 赤木 七海
私は「ぼくのブックウーマン」を読んで、カルの気持ちが変わっていくお話だと思います。なぜなら、最初のころのカルは、本に興味がありませんでしたが、ブックウーマンがカルの家に本を渡すたびにだんだんカルの気持ちが変わっていくと思ったからです。それは、ブックウーマンが雨の日でもきりの日でも、カルの家に本を渡しに行くからです。読書は私にとってとても大切だと思います。なぜなら、今私はアメリカにいるので、土曜日にしか日本の本を借りることしかできません。そして、本を読んでいると知らない言葉がでてきて、その言葉を生活に使うかもしれないからです。だから私は、土曜日に本を借りたり家でもっとたくさん本を読んだりしたいと思います。

「ぼくのブックウーマン」 6年1組 寺澤 悠人
ぼくは「ぼくのブックウーマン」を読んで、主人公のカルは、最初本を読むのがすごく嫌いで、本を読んでいる妹のラクのことを「なんでそんなに本が好きなのか」という気持ちから、さらにこの物語を読んで分かりました。ブックウーマンは、本の面白さを知ってもらうためにわざわざ馬に乗って、山のとっぺんに来るのだと思います。本が面白くなかったら、ブックウーマンはわざわざ山へ来ないと思ったからです。それで本の面白さを知ったカルは、ブックウーマンに何かお礼をしようと思ったのではないかと、ぼくは思います。ぼくも本は苦手なのですがこのブックウーマンを読んで、ぼくも今日図書館で本を借りようと思います。

Cherry Blossom Festival (桜まつり) のお知らせ 日時：5月4日(日) 1～4時
 場所：Carmel Japanese Garden*内容など詳細は未定ですが、近くなりましたらご案内します。多数の来訪をお待ちしております。*子どもブース(折り紙、けん玉など)での高校生のボランティアを募集しております。興味のある方は、榎尾までテキストメッセージを送付ください。Masumi Makio 317-501-1794

| 1月25日作品 | | 土曜パラダイスで紹介 | |
|----------|--------|-------------------------|--|
| 小学3年3組 | 細江 悠稀 | 「さんすうの もんだいづくり たのしいな」 | |
| 小学6年1組 | 町田 柚輝 | 「うちのクラス 輝くメダル もらったよ」 | |
| 小学6年2組 | 福村 映斗 | 「いきている みんなに感謝 ありがとう」 | |
| 小学5年2組 | 福原 美翔 | 「お母さん ほんとうはすき てれるなあ」 | |
| 小学3年1組 | 青砥 世那 | 「えらばれて なまえをわすれ かなしいな」 | |
| 小学6年1組 | 岩谷 颯樹 | 「春の日は 色とりどりで 暖かい」 | |
| 小学3年1組 | 長内 眞乃助 | 「きのうは お母さんの たんじょうび」 | |
| 小学6年1組 | 深川 緒莉 | 「6年生 徹夜で宿題 終わらせる」 | |
| 小学4年2組 | 松島 誓志 | 「雪解けて 友が消えてく 雪だるま」 | |
| 小学6年2組 | 川上 悠里依 | 「もうすぐで 中学生だ がんばるぞ」 | |
| ダジャレコーナー | | | |
| 中学2年1組 | 中2ガール | 「大会に 行ってみたいかい」 | |
| 小学1年1組 | 平原 璃奈 | 「くるまが くるくる」 | |
| 小学2年1組 | 上田 楓 | 「とりが とっとりけんに 行った」 | |
| 学校だよりに掲載 | | | |
| 小学6年1組 | 職員 | 「ほこらしい 机の上に 光る楯」 | |
| 小学4年1組 | 水野谷 燈 | 「カッター かたカッター」 | |
| 中学2年1組 | 性別男さん | 「帽子はご法度 (hat)」 | |
| 小学2年2組 | 夏目ことは | 「うんどうぐつで どこいく? うん、どうぐつ」 | |
| 小学2年2組 | 後藤 楓 | 「きりんが といれで すっきりん」 | |



ヒゲ森の言葉の森・探検

きょうえつ しごく

恐悦至極

恐れ慎みながらも、大いに喜ぶこと。相手に敬意を込めて感謝の意を述べる場合に使う。

行いはおれのもの、批判は他人のもの、おれの知ったことじゃない。

勝海舟

1823年～1899年 幕末の武士、政治家。自分の行動は自分で制御できるが、それに対する他人からの批判は制御できない。だったら、気にせず
に思う存分やればいい。